

# 町長所信

(野口)

アベノミクスの信を問う衆議院選挙が終わりました。結果は自公連立与党の圧勝となり、国民の景気対策の継続と新たな地方創生に向けた取り組みへの大きな期待が示されたところです。今後は、できるだけ早くアベノミクスの効果が地方まで波及するとともに地方創生への取り組みが加速することを心から期待したいと思えます。

さて平成23年4月の町長就任以来、町民の皆様、議員の皆様から、いろんなご意見をいただき施策を進めてきました。その中で感じますことは、多くの町民の皆様は、牟岐町が昔のように活気を取り戻すことを期待されています。また、再生できないまでも、住んで快適な牟岐町の存続を強く望んでおられます。しかしながら、今年の5月、日本

創生会議において、2040年には現在の日本のおよそ半数の市町村が若い女性の数が半減し、将来自治体としての存続ができなくなる、いわゆる消滅可能性都市であるとの報道がありました。しかし、私は未だに創生を諦めてはいません。田舎には、豊かな食と心身が休息できる環境がございます。都会の華やかさや刺激的な変化はありませんが、人間らしい落ち着いた生活できる環境がございます。そして、最近の若者は、日本人にとり、本場に必要ない地方が、地方の文化が消滅の危機にあることを危惧し、地方創生に係わりたいと考える人が増えていきます。また、必要以上の競争のない豊かな環境の中で人間らしく生きたいと思う方が増えています。

私は地方創生に最も重要なことは、町民の皆様が願いを同じくし、創生に向けた取り組みを粘り強く継続していくことだと思います。今年9月、国は『まちひとしごと創生本部』を立上げ、

危機感を持ち、都市から地方への流れを起そうとしています。これを受け徳島県は10月に地方創生本部を設置し、行動を開始しました。そして、牟岐町も今年12月より地方創生会議を設置し、戦略計画の策定に向け議論を進めています。ただ、これまで牟岐町に創生策が全くなかったわけではありません。牟岐町総合計画がありますし、平成25年に、これを基に牟岐町再生会議でとりまとめた再生策があります。今回の戦略計画は、これらを基に、また、海部郡全体での取組みとも連携し、創生策を取りまとめたたいと考えています。

さて、牟岐町には、競争力のある道路インフラはありませんが、住民生活に欠かすことのできない生活インフラはございます。特に医療と教育の施設は、現在、災害拠点病院や地域医療最先端病院とするべく、海部病院の移転改築に向け工事を開始していますし、地震津波に安全な学校関係施設は、平成25年度に移転統合

を完了しています。

したがって、今、牟岐町創成のために全力を傾注すべきは、産業の再生、つまり農林漁業の再生です。また、交流人口の増加につながる、まちづくりのテーマの共通認識です。漁業は魚介類や海藻などの海産物が採れるように、みんなが一致団結し努力を継続していかねばなりません。農業は、米、野菜、果物、畜産など、町の特産品を作るため、み



牟岐町活性化に取り組む大学生グループ「ひとつむぎ」と出羽島町並み保存や活性化のためのワークショップ

んなで協力し体制づくりや意識の醸成に取組まなければなりません。いずれにしても今を生きる大人達だけでなく、子ども達にとっても将来、自然の恵みを楽しんで、牟岐町で生きていけるよう、今後、懸命に改善に向けた努力を続けていかなければなりません。牟岐町に必要な魅力、それは、豊かな自然と豊かな食材です。田舎に居れば、どんな災害があっても生き